



～ぼく モグラ キツネ 馬～

ときどき子どもたちから、「校長先生、この本読んだことありますか？とっても良かったので、先生もぜひ読んでみてください。」と紹介してもらうことがあります。また、自主勉ノートの読書感想文や視写を読ませてもらって同じ本を探したりしています。子どもたちの感性の素敵さに驚かされ、また、これらの本と出会う機会を与えてくださっている保護者の皆様に感謝しています。

今回はそんなお勧めの本の中から一冊紹介します。

表題にした『ぼく モグラ キツネ 馬』（チャーリー・マッケンジー 飛鳥新社）の中で、知りたがりの男の子が森の中で小さな食いしん坊のモグラに出会います。ふたりは“将来”のことや“成功”について語り合いながら森を進んでいきます。ちなみに“成功”することのモグラの答えは“そりゃあだれかをすきになることだよ”です。しゃれていますね。

つぎにふたりは無口で猜疑心が強くそして畏にかかったキツネに出会います。モグラはその強い歯で天敵のキツネを助けます。

“なにかがおきたときにどうふるまうか。それこそが、オイラたちにあたえられているさいこうのじゅうってもんさ”とモグラ。

三人は最後に一番大きくておだやかな馬に出会います。多感で知りたがりの少年はそれまで心の内に秘めていた人生の質問をモグラや馬に投げかけます。

“ときどき、まいごになったきぶんになるよ”

“ただいっしょにいるのは、いみがないこと？”

“どうしてあのと私たちは、あんなにかんぺきにそろってみえるの？”

“こころがいたむときは、どうしたらいいの？”

そのつど、モグラや馬はやさしく明快な答えを与えてくれます。無口なキツネはぼそっと本音を漏らしてくれます。私の心にいちばんしみ込んだのは、次の質問です。

“いままでにあなたがいったなかで、いちばんゆうかんなことばは？”

ぼくがたずねると、馬はこたえます。・・・・・・

“この本はだれでも楽しめる。あなたが8歳でも80歳でも。”と作者のチャーリーさんは書いています。私からもお勧めです。
(校長 植松 克友)

2月の生活目標

「自分に合った体力づくりをしよう」

3学期が始まり、1か月が過ぎました。学校では1月20日(木)より、体力づくりのために、はつらつタイムの時間に、時間跳びの音楽が流れるようになりました。

多くの子どもたちが自主的に時間跳びに挑戦しています。寒さに負けず、元気に活動する子どもたちが増えていることは、うれしいことです。活動後は、手洗いや消毒の声掛けをして、健康管理にも気を付けていきたいと思えます。



【はつらつタイムのなわとびの様子】

※コロナウイルス感染対策のため「まん延防止等重点措置」適用期間中の給食後の歯みがきを中止しています。ご理解の程、よろしくお願いいたします。